

第6次高浜市総合計画推進会議（第2回） 会議録			
日 時	令和4年8月23日（火）午後7時00分～8時30分		
場 所	市役所 会議棟	傍聴人数	0名
出席者	委 員	中川幾郎、川角満乗、菅野洋一、後藤恵理、 都築美穂、平井吉弘、横山英樹、宮田克弥、深谷直弘  (9名出席)	
	行 政	高浜市長            吉岡初浩 市民部長            岡島正明 福祉部長            磯村和志 都市政策部長       杉浦義人 経済環境グループ    リーダー 東條光穂 地域福祉グループ    リーダー 加藤直 介護障がいグループ   リーダー 野口恒夫 福祉まるごと相談グループ   リーダー 野口真樹 健康推進グループ    リーダー 中川幸紀 防災防犯グループ    リーダー 杉浦睦彦 上下水道グループ    リーダー 石川良彦 土木グループ        リーダー 清水洋己 都市計画グループ    リーダー 島口靖  (13名出席)	
	事務局	企画部長            木村忠好 総合政策グループ    リーダー 榊原雅彦 同                    主 査 祖父江佑介 同                    主 任 柘植一馬 同                    主 事 東端佑奈 同                    主 事 杉浦功暉 同                    主 事 嶋本花凜  (7名出席)	
次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について〔基本目標Ⅲ・Ⅳ〕 3 その他		
資 料	資料1：令和4年度「市民意識調査」「小・中学校アンケート」の実施概要について 資料2：施策評価シート【令和3年度の取組みに対する行政内部の評価】		

1. あいさつ	
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は御多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。</li> <li>・ただ今より、「第2回 第6次高浜市総合計画推進会議」を開会いたします。</li> </ul>

2. 議題	
1) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について〔基本目標Ⅲ・Ⅳ〕	
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は前回の第1回推進会議に引き続き、後期基本計画に掲げた目標の達成状況を点検・確認していきます。</li> <li>・議題1「施策評価シート（内部評価）の発表」に入りたい。</li> <li>・発表の方法であるが、前回と同様に行政サイドから発表を行い、目標ごとに区切って委員からのご意見をお受けします。</li> <li>・時間も限られているため、行政の発表は1目標あたり「4分以内」でお願いします。</li> <li>・令和3年度の取組み内容や成果、課題などをしっかりと確認し、私たち委員から今後に向けて努力するための意見を述べてまいりたいと思います。</li> <li>・では、発表に入ります。まずは基本目標Ⅲの発表ということで、資料2の32ページ、目標（6）の発表からお願いします。</li> </ul>
経済環境GL	<資料2 32～34ページを基に発表>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業について、ジャンボ落花生は商標登録されているのか。もしされているなら、ジャンボ落花生とでか落花生のどちらで商標登録されているのか。</li> <li>・高浜市の2022年問題っていうのがクローズアップされている。生産緑地の契約が2022年度に切れると皆農地を売ってしまうと思う。土地をどんどん売って住宅が建つのはいいが農業は守られるのか。</li> </ul>
経済環境GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンボ落花生の商標登録は行っていない。ジャンボ落花生は普通の落花生に比べて大きい品種全体を指すものであるため、各地でジャンボ落花生が売られている。高浜産のものを区別するため、令和3年度より販売を行うときにはでか落花生という名前で販売している。</li> </ul>
都市計画GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定生産緑地について、生産緑地法というものが平成3年に改正され、市街化区域の農業を保全するという目的で生産緑地地区に指定をしている。その生産緑地については、基本的には30年間生産緑地を継続していただくという流れであるが、実は今年の12月に切替えの時期が来る。市街化区域内農地の保全という観点から、この生産緑地をさらに10年間引き延ばして生産緑地の制度を引き継いでいける施策が、特定生産緑地制度という形で法改正があり、従来の生産緑地の約7割がそちらに切替えられていく。特定生産緑地に切替えられた方については、適正な農業経営・運営等を今後も市でも支援をしていきたいと考えている。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が実施する産業の活性化について、PRできるものは恐らく少ないだろうと思う。例えば、(1)の取組みの中には、ほとんどジャンボ落花生の話しかない。企業を誘致すると言っておきながら、企業誘致については1行書いてあるだけであり、補助金を交付した企業に対してヒアリングを実施した結果については出てきていない気がする。</li> <li>・高浜高校のSBPにしても、観光協会にしても、市役所はバックアップする立場だろうと思っていて、ここで産業活性化するという市としての大きな視点がどこかに出てくるべきだという気がして、例えば伝統産業をどうするかというのは、いろんなことを実施していただいているが実際にはどうしたいのかがわからない。瓦屋がどんどんなくなっていく中で、生き残った人を末永く伸ばしたいのか、それとも本当の伝統産業として美術工芸品のような形にしていきたいのかというのがよくわからない。観光についても、市が何をPRしたいのかがわからない、鬼みちまつりが大きなイベントだとすると、産業の活性化を市がどういう形で、バックアップしていき、最終的にはどんな形にしたいのかというのがここではわからないと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定生産緑地の7割ということだが、7割の方の中で、ほかに使い道がなく仕方がないから特定生産緑地としたという方はどのぐらいの割合でいたのか。アンケートの結果、実際の所有者の本音はどうなっているかを聞きたい。</li> </ul>
経済環境GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市としての産業をどういう風にしていくかについて、バックアップが主になってくる。市全体的に見て、事業者がきちんとやっていけるように補助金等をつくっている。</li> <li>・伝統産業については、愛知県の工芸品のほうで三州鬼瓦工芸品ということで登録いただいた。屋根瓦も三州瓦のほうが、国内でのシェアが若干多くなっているので、そういったところも途切れなくやっていけるように支援をしていければと考えている。</li> </ul>
都市計画GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定生産緑地の7割の方の意向について、確かに生産緑地を指定する前にアンケート調査というものを実施した。その中で、7割以上の方が生産緑地を継続していくとあった。市街化の優良農地をなるべく確保していきたいという思いから生産緑地の申請をされるというふうに私どもは理解している。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、35ページ、目標(7)の発表をお願いしたい。</li> </ul>
経済環境GL	<p>&lt;資料2 35～36ページを基に発表&gt;</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この評価シートについて、こんなことに取り組みますのところで、環境保全、ごみの減量化、環境美化の全部が1つに書いてある。各課題を分けて書かないと、それぞれのテーマのPDCAが回らないんじゃないかという心配がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決に向けた方向性で、周辺市の動向を踏まえながら検討するとあるが、ここでは、本来次のステップに行くための改善策のようなものが出てくるべきではないかなというふうに思う。</li> </ul>
経済環境GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について、ごみや環境の中で今市が行ってるものの中ではごみ行政が多いので、一緒になって考えて書かれてしまっている。</li> <li>・今後の方向性については、周辺市の動向も踏まえながらということで、課題解決に向けB to B等の様々な施策を打っているが、隣の碧南市に足並みをそろえるということもあり、なかなかうまく書けていないが、今後新しい施策をできるように考えていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの減量化について、1人当たりの発生するごみを減らすと言っているが、ごみ処理費を削減すると捉えたと、ごみの量は横ばいかもしいれないが、実際に衣浦衛生組合に支払っている額は増えたのか減ったのか伺いたい。</li> </ul>
経済環境GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生組合に支払ってる分担金について、衛生組合の施設の老朽化に伴う修繕費等が発生しておりますので、年々増えている状況にあります。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、37ページ、目標（8）の発表をお願いしたい。</li> </ul>
土木GL	<資料2 37～38ページを基に発表>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフラインについて、インフラもそうだが早くやらないと大変だと思う。地震等の災害があったり、老朽化でライフラインが止まったり等国のリダンダンシーの話である。国が防災、減災、国土強靱化のための5か年強化対策というのを打ち出して、令和2年度から5年間15兆円を用意している。そのお金を使いながら早く進めるということは考えていないのか。</li> </ul>
土木GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路については今現在社会資本の交付金で行っている。公園については、遊具の更新等が補助対象になっていないので、県費の補助で対応している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨の水害により、下水道のマンホールの蓋による事故がよく発生している。マンホールの蓋は大体5年で寿命が来るから取り替えるという話になっているが、高浜市はマンホールの管理についてどうしているか。</li> </ul>
土木GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンホールの蓋に関しては、業務委託のほうで点検をしている。また、下水道区域の雨水のマンホール、以前設置したものに関しまして下水道の汚水工事とともに取り替えの工事を随時行っている。</li> <li>・マンホールのあふれ対策について、今のところそういった現象は起きておらず、さらに浮上防止型6型のマンホール蓋を使用しているので、その辺は安全に、適切に管理出来ていると感じている。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、39ページ、目標（9）の発表をお願いしたい。</li> </ul>
防災防犯GL	<資料2 39～41ページを基に発表>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなことに取り組みますの（1）で分析されているとおり、防災訓練を</li> </ul>

	<p>中止とすると市民の防災、減災意識が低下すると思う。感染症を意識しながら、より実践的な訓練を実施できるよう地域の皆さんと一緒に打ち合わせしながら進めるべきだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイタイムラインについて出てきたが、なかなか知っている人が少ないのではないかなという気がする。これを作成するよう仕向けるための策が、必要ではないのかというふうに思った。</li> </ul>
防災防犯G L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練については、おっしゃられたとおりそういった機会が少なくなると防災に対する意識は低下する。訓練は、続けて行うことで身につくものと考えているので、コロナ対策等の地域のご意向もありますので、地域の皆様方と進め方等を協議しながら訓練ができるように努めていく。</li> <li>・マイタイムラインの普及について、昨年度の防災リーダー養成講座等で重要性をアナウンスしている。広報としては市のホームページで公開したり、防災マップを全戸配布したりしている。今回の防災マップの中にマイタイムラインも入っており、それを見て各家庭でマイタイムライン作成に動いていただきたいがなかなか伝わりにくい。今年度は、小学校の総合学習の中で、各小学校の防災の出前講座でマイタイムラインの作成のワークショップを実施し、家庭に帰って親御さんと一緒に作成し、いざというときにどうしたらいいのかなということを家族で考えていただけるような取り組みを実施していきたいと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災リーダーっていうのは、登録している資格なのか、単なる呼び名なのか、どういう認証、仕組みがあるのか教えて欲しい。</li> </ul>
防災防犯G L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災リーダーというのは、行政だけでは防災減災は対応しきれないので、地域に大規模な災害が発生したときに地域の方々にリーダーシップをとっていただき、皆さんで協力してやっていただくための人材を発掘するためのもので、登録制度ではない。ただ、受講された地域の人材資源を、幅広く周知・活用できる仕組みを今後は考えていきたいと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうすると、地域防災リーダーの受講者、これらの延べ数はどんどん増えていく。さらにそこから防災士の資格を持ってもらうところまで引っ張り出せないのか。</li> </ul>
防災防犯G L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的にはそういったところまで引き上げたいと思うが、リーダーという敷居が高く感じられてしまい、取り組んでいただくことが非常に難しい。まずは、講座を受講することで防災に興味を持っていただいたうえで、地域の防災訓練に参加していただき、受講したことがこんなところで役に立つんだなと感じていただくところからじっくりと進めていきたい。会長が言われたように、次なるステップというところは、フォローアップ編で過去の受講者に対して振り返りを実施しております。そういった方々の声がある程度上がってきたら、次なるところを考えていきたい。</li> </ul>

中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見ですが、防災リーダーという言葉がよくないと思う。防災心得講座にしてみてもどうか。そこから第2ステップのスタッフリーダー養成講座、第3ステップの防災士資格認定にしていけばよいかと。こういう人たちをどのぐらい把握しているのか。この取り組みを補助するために非常に有意義な数字だと思う。各まち協ごとに防災士最低10名ぐらい作ってくださいと要請してもよいのでは。無理してでも作らなければまちの安全性は保たれない。民間の防災士まで行くような人たちもいるわけだから、危機感を持って取り組んだほうがいいんじゃないかなと思う。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>続いて、目標Ⅳの発表に入ります。42ページ、目標(10)の発表をお願いしたい。</li> </ul>
地域福祉GL	〈資料2 42～43ページを基に発表〉
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) その人に合った暮らしを実現するための目標の達成状況と結果分析の欄の、ボランティア活動に参加したことがある割合というところでボランティアについて触れているが、課題解決に向けた方向性についてはそれに触れてはいない形になっている。ボランティアを増やす体制づくりというのは人材づくりという考え方でよろしいか。</li> </ul>
地域福祉GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの養成については、毎年講座等を実施している。そして、利用者のマッチングや、ボランティア同士の情報交換を実際に行っている。コロナの関係でキャンセル等が令和2年度はかなり多かったため、3年度はできる範囲内で実施し増えてきたが、今後そういった活動を通してボランティアの養成育成等を行っていききたいと少し考えている。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までと同じことをしますということか。</li> </ul>
地域福祉GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、地道に取り組んでいきます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者とか、要介護、高齢者、認知症の人もいると思うが、こういう障がい者の人たちが1人で住んでる場合に、ごみをステーションまで持っていけないと思うが、どういうサービスをしているのか。それとも、近所の誰かが気づいてやってるのか。</li> </ul>
経済環境GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者のふれあいサービスを社会福祉協議会が実施しているので、それで今は対応できている。あとは御近所同士で、気づいた方がやられてるということもあるかと思うが、今は社協のサービスで賄っている。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>続いて、44ページ、目標(11)の発表をお願いしたい。</li> </ul>
健康推進GL	〈資料2 44～45ページを基に発表〉
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>こんなことに取り組みます(1)の分析で、外出自粛やテレワークにより日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合が減少しているとあるが、テレワークと日常の外出や運動は、関係が薄いと思うがどうか。</li> <li>こんなことに取り組みます(2)の分析で、70歳代の認知機能と身体活動の低下を防ぐところの課題解決に向けた方向性で、日常的に健康づく</li> </ul>

	<p>り活動に参加できる仕組みを検討するとあるが、さらにどんな仕組みを想定しているのか。</p>
健康推進GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出自粛やテレワークと日常的に外出や運動の割合の結果について関係が薄いというところにつきまして、並列で記載をしております少しわかりにくかったと思うので、こちらは注意してまいりたい。</li> <li>・70歳代以上等の方についての数値が下がっているというところへの働きかけとして、実際にいろいろな教室等の開催を予定していたが、当初は、コロナウイルスが高齢者の方が発症しやすい、重症化しやすいということで開催を中止、または縮減をしているような状況であった。最近では高齢者の発症率がそこまで高くないということで、今後はそういったところに力を入れているいろいろな事業や教室等を開催していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な仕組みとしてははないのか。</li> </ul>
健康推進GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にご高齢の方については、高齢になればなるほど発症しやすい認知症を予防することが必要で、認知症を防ぐためにはいろいろな人に会うことや、楽しみを持つこと、役割を持つ等の機会を増やすことが重要である。そういった場を提供するような仕組みを今後も継続していきたいと思っている。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上で本日の議論すべき項目は終了した。</li> <li>・最後に委員の皆さまお一人おひとりから、今回の全体を通して、あるいは、個々の目標に対してでも結構なので、令和3年度の取り組みについての成果や課題、今後に向けてのエールなど、おひとり1分程度でご発言をお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日はありがとうございました。</li> </ul> <p>市ではたくさんの取り組みをされていて職員の方々は大変御尽力されているかと思う。市民としてすごく嬉しくて、こういうふうに取り組み、実現していくことはすごく大切であるが、委員になってから知ったことのほうが多く、市民として受け取る機会が多くはなかった。せっかくフェイスブック等いろいろな取り組みをしているので、もう少しPRが強いと若い世代にも届くのかなと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍となり2年3年がたつ。コロナに寄り添った活動、特に防災や福祉等の普段から必要になってくることに関しては、足をとめずに取り組んで行って欲しい。</li> <li>・生活困窮者の自立支援事業の方では、最近問題になっているヤングケアラーの問題について、何か対策を取り組まれるのかということを知り忘れたのでここで質問させていただきます。</li> </ul>
福祉まるごと相談GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーについて、現在愛知県で実態調査のほうを進めており結果が出ている状況。県の情報の中では市町村ごとのアンケートの結果が出てないため高浜市の状況というのが詳しくわかってないが、実際には大</li> </ul>

	<p>体2%ぐらいの割合で、各学校にヤングケアラーがいるといわれている。その実態把握にまずは力を入れていくため、教育委員会と連携しながら今後はしっかり把握して、福祉の支援が必要な方、支援が必要なお子さんに関しては、福祉まるごと相談グループが支援コーディネーターとなり、サポートしていきたいと考えている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お金を国からもらって、ハード面をしっかりとしないといけないと思う。ハード面についてはしっかり申請していかないと。すごい少ないと思う。国がお金を15兆円用意して5年間で使ってよと言っているんだからもらうべき。和歌山県にいた経験があり、紀の川市では今年市の一般会計が290億円で、その中の90億が自主財源で200億が国からの補助金。それで防災タワー等を作っている。そういうハードのところをある程度充実させて、国から補助金をもらって頑張っていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たくさんいろいろ取り組んでいただいて非常にありがたい。いつも見て感じるのが、まち協とか町内会という言葉が頻繁に出てくる割に、まち協とか町内会をどう活用しようとしてるのがよくわからない。まち協や町内会も働きかけを待っているところがある。防災にしても、町内会でやろうとしていることが、必ずしも市がやろうとしていることと一致していないかもしれないが、せっきく地域を巻き込んで何かを実施しようということをおっしゃっているなら、まち協や町内会への働きかけをしてほしい。市の採用1、2年目の方等をもっと活用して、町内会等の地域活動に積極的に参加させたらどうか。町内会も1年ごとに役員が変わってしまうのでつながらない。その辺も考えながらその地域との取り組みを考えていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本日はありがとうございました。次から次へと変わる問題に行政の方々が取り組んでいただいて本当に大変だなと思っておりますが、住みやすいまちになるといいなと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市の方にいろいろやっていただいており、その恩恵を受けていいまちに住んでいるなと思っている。</li> <li>• 1番感じているのが、防災防犯について心配がある。何か起こったときに、何ができるかなという思いが常にある。まち協や町内会が参加できる取り組み等、いろいろ計画を練っていただきたい。ありがとうございます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生産緑地のパーセンテージがずっと引っかかっている。なぜこんなに特定生産緑地にされるかという、税金が高くなるからそれを落とすためにやってくれていると思う。産業としては、たくさん住宅が建つ、そういうふうなまちになってもいいんじゃないかなと考えております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各シートがPDCAという形にはなっていて、Doの部分はたくさん書いてありますが、チェックの部分については実施したことがそのチェックから導かれたもので、次の段階にというところの改善策がどうもあまり</li> </ul>

	<p>はっきり出ていない。つながりがよくわからない形で書いてあることが多く感じる。チェックしたことから次のアクションへ、さらに改善策をここで出させていただいて、それを何回か繰り返していただくことを目標にするともっともっと力がつくのではないかなと思う。</p>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副市長からもご発言いただきたい。</li> </ul>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さん方からコメントいただき、全体通して思ったのは、活動それぞれこんなことに取り組みますというのがあるが、事を進めていく途中でも、目標達成に向けてその中身がどういうふうになっているのかということ、段階に応じてフィードバックをしながら次に進めていくということがとても重要であると皆さんの意見を聞いて感じました。</li> <li>・先ほどの特定生産緑地の話が出ましたが、なかなか市の立場として税というところでは、本当は生産緑地でも市街地の中では、非常に有益な役割を持っていて、雨がたくさん降ったときは土に水をためる機能を持っていますし、CO<sub>2</sub>の削減については緑が非常に重要なポジションだと思う。さまざまな見方がありますが、そういったところまで細かな視点を持ってご意見をいただけたというのは非常にありがたい。</li> <li>・情報発信について、いろんな媒体を使って我々は、一生懸命伝えてるつもりでいた。しかし、コロナの関係で家計支援と、企業さんに向けて事業者支援ということでプレミアム商品券を配布したが、なかなかその情報が伝わってなかった。広告を打ったからできているものだと思っていたが、そんなことやってたのかと言われたことがあった。そういった部分では、行政としてそれぞれのセクションがいろんな媒体を使うということ、それからこういった情報を誰にどのようにとすることも切り分けながらやっていかなければならないと感じました。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括的な話からしますと、お手元に配られております資料1の2ページ目の指標の7番の環境美化保全以外は、全部二重丸一重丸になってます。実績値が計画策定時の数値を下回っているものの、令和2年を令和3年を上回っている。微妙なところが一重丸。さらに、その次の3ページをご覧くださいと今回の調査の結果が出ている。ところで今回の調査すごく回収率が高いが、紙ではない回答もあるからなのか。</li> </ul>
総合政策GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回回収率50%を超えるようなところまで行ったのは、初めてリマインドということで、お忘れではないですかというご案内を追加で出させていただいた結果、回収率が過去最高の率までいった。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率が上がったがために、むしろデータが下がった可能性がある。逆にいえば回収率が低かったからデータがよかったかもしれない。現在の衆議院議員選挙とよく似てて、投票率が上がれば上がるほど現政権に対して厳しくなるみたいなので、回収率が上がったということはいいことなので、そこからパーセンテージが落ちているということは、ある意味で</li> </ul>

危機を先取りしてくれてるかもしれない。結果を受けて謙虚に×がついている分野については、課題がもう浮上し始めたなというふうに受け取ったほうがいいかもしれない。

×がついている項目を総じて評価すると、市民全体の実態的な活力は低下しつつあるのだから、先ほどの地域福祉グループリーダーと委員とのやりとりの中で、今までと同じ努力をさらに積み重ねますというやりとりがあり、やり方を変えないということですね、という私の言葉が皮肉に聞こえたかもしれませんが、回数を増やすとか、中身に関してもっと工夫してみるとか、そういうふうな回答があればもう少し対応ができたと思う。これだけ活力が低下し、高齢化しだしている市民の逃げ腰のエネルギーをどう引っ張り出すのか、という現状認識の変更を迫られてるので、そのあたりを変えた上でのアクションを考え直したらいいと思う。

- 先ほど委員さんが地域という言葉は結構出てくる、とおっしゃっていたが私は反対で、むしろ地域という言葉が出てこなさすぎると思う。全てのことが地域と関係してるのに、地域に対しては何を期待するとか、地域にはこういうことをしてほしいなというのが出てきていない。全部行政主体でできると思い込んでいる。道路公園、上下水道に関しても地域の役割はあるはずで、例えばアダプト道路というのを設定して、仮に道路に破損があればすぐに連絡してくださいというような、地域住民とつながるような仕組みをつくっていききたいとか、そういうふうにしてもいいんじゃないかなと思う。だから、ハード面に関しては、何か地域とあんまり関係ないかのように受け取れる。この考え方はそろそろ改められるべきだと思う。

次の総合計画の中間評価の仕組みは、これは住民自治側の課題と役割、団体自治としての行政側の課題がわかるようにきちっと分けて、そしてそれをどうすればつなげられるかという共同参画の仕組みを課題として出すようお願いしたいと思います。

- 先ほど委員がおっしゃったことについては私も同感するところではありますが、高浜市は地方交付税の不交付団体である。不交付団体だったらお金ももらえない。該当する補助金システムがない、あるなら取ると言ってます。だからぬかりはありませんので信じてあげていただきたい。

- 地域との関係という所は必ず記述してもらいたいし、教育委員会は今日来ていませんが、教育委員会さんにもこれから地域とのコミュニケーションをお願いしたい。教育委員会系統の回答については地域を風景として書いている。地域を風景としてではなく、主体であるということははっきりと認識して、もう少し地域との関わり合いについては、立体的に答えていただきたい。地域とともに頑張りますとただ書いてあるだけでは駄目。地域（まちづくり協議会や自治会）と具体的に手を結びますくらいははっきり

	<p>と書かなければ次からは通らない。住民自治と団体自治があつて地方自治があるわけで、団体自治だけ頑張ったところで限界がある。だから住民自治も国も協力してください、活性化してくださいといっていくべき。ところが住民自治が高齢化してどんどんアクティビティが落ちている。だったらその住民自治を新たに再生させる仕組みをどこが開発するのか、次のリーダーは誰か、それは社会教育なのか、生涯学習か。あるいは単独部局だけ頑張ればいいのか。もう少し真剣に考えないと、縦割りで非効率の住民自治との連携協力をやる時期は過ぎてると私は思う。横つなぎで協力する仕組みを考えていただきたい。</p>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は、時間にかぎりもあるということで、第1回推進会議の際に送付された「コメント用紙」に本日の発言だけでは言い足りなかった点などがありましたら、前回発表の目標（1）から（5）に対するコメントと合わせて8月30日（火）までに事務局へご提出お願いいたします。</li> <li>・事務局で、本日委員の皆さんからのご発言、コメント用紙の概要を「施策評価シート」の「V.推進会議による点検・確認結果」の欄にとりまとめていただき、次回9月20日（火）の第3回推進会議で「推進会議からのコメント」として確定するという形で進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</li> </ul>

3. その他	
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他として何かあればお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>（事務連絡）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の推進会議は9月20日（火）午後7時から会議棟で行います。</li> <li>・女の子の写真が載っているチラシについて、総合計画に掲載するしあわせをイメージするような写真の募集を今月末までしておりますので、委員の皆様のお応募、また周りの方へ御案内していただけますようお願いいたします。</li> <li>・青色のチラシについて、総合計画の素案発表会の案内チラシです。9月22日木曜日にいきいき広場の2階ホールで、午後6時半から行う予定です。新型コロナウイルス感染症対策として、先着50名と人数を示しておりますが、なるべく多くの方に傍聴していただきたいということで、オンラインでも配信予定をしておりますので皆様のご参加お待ちしております。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これをもって第2回推進会議を終了します。</li> </ul>